

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	山梨大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ヤマナシダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	工学部、生命環境学部、教育学部、大学院
	担当教職員名・役職	大木真・工学部教授、田中勝・教育学部教授、古家貴雄・教育学部教授、石井孝明・工学部教授、島弘幸・生命環境学部准教授、久本雅嗣・生命環境学部准教授
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	235
	受入企業等数	176
	受入企業等名	https://www.yamanashi.ac.jp/ (山梨大学)→(センター紹介)キャリアセンター→受入機関の紹介
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	例えば食品製造業の場合、食品安全マネジメントシステムの規格を座学で学ぶ。製品の開発実習に参加。製造ラインで実習を行う。品質管理部門で品質管理工程の見学、風味チェックを行う。最終日に、実習内容、成果等について会社担当者に対してプレゼンテーションを行う。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次・3年次・4年次・大学院
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位
要素③	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	1週間以上(40時間以上)で1単位、2週間以上(80時間以上)参加した場合は合計2単位とする学部もある(工学部、生命環境学部)。また生命環境学部では4年次は実施していない。教育学部では大学院では実施していない。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ終了後に受入先企業を職員が訪問しモニタリングを行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	学部単位でインターンシップの目的、意義についての説明会を開催している。その後全学部対象で、インターンシップの意義の確認、参加企業の探し方、参加手続きについての説明会を実施している。参加者全員にマナー研修参加を義務づけている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	各学部毎に成果報告会を開催し、学生は自己のインターンシップ内容を発表すると共に、他の参加者の実習内容を聴き、インターンシップの振り返りを行っている。その後学生、企業担当者、教職員を対象とした全学インターンシップ報告会において各学部代表が発表し、コメントをもらう。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	主にインターンシップ終了後に企業を担当職員が訪問し、学生の参加姿勢、改善点、インターンシップに期待すること、大学への要望等を聴取し、今後の改善に役立っている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生が作成した「インターンシップ実施日誌」及び「インターンシップ結果報告書」により教員が教育効果を判断している。学生に対しインターンシップ参加後アンケートを実施し、成果を確認している。

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	5日インターンシップをプログラムに基づき、開始初日にインターンシップに必要な知識、情報等の学習の時間をとり、最終日は振り返りを行うように企業にアドバイスしている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業担当者に学生の作成した「インターンシップ実施日誌」に内容を確認してもらっている。また、大学指定書式の「評価書」に評価を頂き、成果採点の一つとしている。全学インターンシップ報告会に企業担当者に参加して頂き意見を頂いたり、議論に参加をして頂いている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://www.yamanashi.ac.jp/">https://www.yamanashi.ac.jp/</a>
問い合わせ先	大学等名	山梨大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	キャリアディレクター
	担当者氏名	山田 賢一
	電話番号	055-220-8240
	メールアドレス	internship@yamanashi.ac.jp